最優秀賞

『支えてくれる人の存在』

島根県立三刀屋高等学校　１年　金森　里紗

私の父を支えてくれたのは看護師さんだったと思う。私の父は昨年の三月に癌が見つかり、ずっと入退院を繰り返していた。私は地元である出雲市を離れ、雲南市の三刀屋高校へ進学し、寮で生活しているため父と会う回数はとても少なかった。また、コロナウイルス感染防止のため面会も制限されていて簡単には会えないという状況だった。

夏休みに入り、久しぶりに帰省した私は、父の荷物を届けるために、母と二人で病院に行った。荷物は手渡しではなく看護師さんに預けて渡してもらった。その時に、今後やっていく治療の流れを聞く日の日程の調整や父の病院での様子などを母と看護師さんが話していた。働いている母に気を配り「この日はどう？」と母の意見を尊重しているようだった。帰り際に、看護師さんが父を呼んでくれ、少し離れたところだったが、顔を見て、手を振ることができた。とても嬉しかった。この時、看護師さんは父に気を配りながら、私たち家族にも気を配ってくれた。

支えてくれたのは病院で働く看護師さんだけではない。父が家に帰ってきたときは点滴の交換や健康状態を観察する訪問看護師さんに毎日来てもらっていた。父が亡くなった後も「手を合わせたい」と家に来てくださった。母が話すことに親身になって話を聞いておられた。訪問看護師さんの存在が母にとってどれだけ心強かったのか痛感した。

今まで知らなかった看護師さんや訪問看護師さんの姿に心打たれた。そんな方々に支えられて過ごした父の闘病生活は、父にとっても、私たちにとっても忘れられない期間になったと思う。最後の最後まで父や私達を支え、寄り添ってくれた看護師や訪問看護師の方には、感謝してもしきれない。父や父を支えてくれた多くの人達を見た私は、命の尊さや支えてくれる人がいる幸せを知ることができた。「人を支える」、簡単にできる事ではないけど、私は人を支えられる存在になりたい。

優秀賞

『私の夢』

島根県立浜田高等学校　２年　長見　優花

私の夢は保健師です。保健師という職業はあまり目立たないけど、とてもすばらしいと思っています。様々な年齢の方々に合ったサポートをすることに魅力を感じます。目指すきっかけになったのは祖父の病気です。

私の祖父はアルツハイマー型認知症でした。病気が発覚したのは、私が生まれる前と両親から聞きました。だから私は本当の祖父を知りません。徐々に自我をコントロールできなくなっていく祖父を見るのは、とても怖かったです。笑顔を見たことはないけど、手をつないだり、抱っこしたりしてくれた祖父がだんだん変わっていく姿を見るのは幼いながら辛かったことを覚えています。

私が小学校低学年のとき、祖父の面倒を見ることが難しくなり、精神病院で入院することになりました。そこには祖父と似たような患者さんでいっぱいでした。叫んでいる人がいれば大きな声で怒鳴っている人もいました。私は祖父に会いに行く度、話すこと、歩くことができなくなっていき、表情が強ばっていく祖父と面会することが怖くなっていました。そして、嫌にもなっていました。

祖父は優しさと思いやりを持っていて、周りから尊敬される人だったと祖母から聞きました。私は、病気はこれほどまで人格を変えてしまうということに気づき驚きました。そして防げる病気であるのなら防いであげたかったと思うようになりました。

看護師の仕事は、患者さんを様々な面から支える事です。病気の患者さんを心身ともにケアすることはとても大切なことだと思います。しかし、私は防げる病気や事故を未然に防ぎ、健康な時にやりたいことができるようにサポートすることも大切だと思っています。だから私は、地域の方々が少しでも元気でいられるようなサポートができる保健師になりたいです。

優秀賞

『私が助産師を目指すのは』

島根県立出雲高等学校　３年　吉田　倫子

私の将来の夢は、助産師として島根県の地域医療に貢献することである。私が助産師を志したきっかけは、小学生のときに母から私を出産した時の話を聞いたことだ。母は流産の経験に加え、妊娠高血圧症候群と切迫早産で長期間入院していたこともあり、初めての出産に不安を感じていた。母は入院生活を送る中で、日に日に不安が強くなる自分の気持ちを訴えると、担当の助産師の方が背中をさすりながら、「亡くなった赤ちゃんがこれから生まれてくる赤ちゃんを守ってくれますよ。」、「赤ちゃんも頑張っていますよ。お母さんも頑張ろうね。」という温かい言葉の励ましで不安を乗り越え、前向きな気持ちで出産に挑むことができた。母子にとって命がけの出産を支える助産師の仕事の尊さに強く惹かれ、私も助産師を目指すようになった。

母の出産の体験談から、母子の安全や健康を守るためには、高度な専門性が求められることや、妊婦の不安や悩みを受け止め、ともに乗り越えようとする姿勢が大切であることを実感した。そこで私は、専門的な知識や技術を身につけ、状態に応じて的確に判断し、行動できる助産師を目指したい。また、妊婦や患者一人ひとりの思いに真摯に向き合い、それぞれの個性や性格を理解した上で、尊重した言葉がけができるようになりたい。そのために患者とのコミュニケーションの取り方を学び、表情や声の調子などの変化を日常的に注意深く観察したり、思いを共有しやすい雰囲気づくりをしたりするなど、多面的なアプローチの方法を主体的に学びたい。

県内の大学に進学が決まり、幼い頃から目指してきた助産師の夢へのスタートラインに立つことができた。大学での充実した学びや経験、様々な人との出会いを重ね、生まれ育った島根県に貢献できる助産師になれるよう努力したい。そして、母を支えてくださった助産師さんのように、誰かの心に一生残るような助産師になりたい。